

「命を救う」

茨城県 ひたちなか市立高野小学校 6年 佐藤 遼太郎きょう しょうたろう

ぼくは、3年前広島で起きた土砂災害を知って土砂災害に興味を持った。それから毎年この土砂災害防止に関する作文を書いている。

ぼくは、土砂災害を防止するために、まず、土砂災害には、どのような種類があるかが分からないと、防止出来ないと思う。土砂災害には、急な斜面が崩れる土砂崩れ、地面が水によってそのまま滑る地滑り、山が崩れたときに出た土砂や石が水と共に流れる土石流などがある。しかし、災害の原因となることが起きたとき、いろいろな土砂災害が全て起こるわけではないが、全てに共通することは、命を奪う力があることだ。土砂災害で命を落とす人は少なくない。さらに、土砂災害で避難した避難先でのストレスで過労死する人もいる。さて、この命を奪う力を持つ土砂災害と、どのように付き合っていけば良いか考えてみた。

まず、命を守るために、すばやく非難することが大切だと思う。土砂災害の危険があると判断されると、土砂災害警戒情報などが出される。その情報を聞いたらすぐに、安全な場所に避難すれば、自分の命は助かる。だが、家族などと会うためには、連絡を取れる道筋を通らなければならない。そのためには、日頃家族で災害が起きたときの決まりを作れば良いと思う。例えば、「避難所に着いたら、トイレの前で待ち合わせ」や「避難所の入り口で待ち合わせ」などの家族の決まりで、少しでも早く家族などと会えば、気持ちが落ち着くと思う。また、避難所生活は、地域の人と助け合う必要がある。けれど、それは簡単にできることではないと思う。そのために、日頃から地域の人と挨拶をすれば、コミュニケーションをとれると思う。ただ、警報が出たからといって、慌てて避難所に向かうのではなく、日頃、非常用持ち出し袋を用意して持ち出せば、避難先で役に立つと思う。ぼくは、こうしてすばやく非難すること、非常用持ち出し袋を用意することが、命を守るために大切だと思う。

災害は心構えが必要だと思う。自分の住んでいる場所の近くに山や急な斜面がないからといって、無防備になってしまうのは、だめだと思う。もし、山や急な斜面がなくても、川が近くを流れていて、山などから来た土砂や石が土石流となって、川に流れこんで来たとする。氾濫して、住んでいる場所に来る可能性は十分にある。インターネットで調べてみると、ハザードマップという災害に遭う恐れのある場所が分かる地図がある。ハザードマップを見ると、ぼくの住んでいる所は、あまり危険がないことが分かった。もし、ハザードマップで危険があると分かったら、避難所の確認や、土砂を食い止める「砂防ダム」のある場所を知るべきだと思う。ぼくの場合は、災害が起きたとき、慌ててしまうだろう。でも、日頃から、頭の中でシミュレーションをしたり、実際に避難場所などに行って確認しておけば、いざ災害が起きたとき、慌てずに避難出来ると思う。災害は心構えが出来ていると、慌てずに行動出来ると思う。

自分の命は助ったとしても、土砂災害で家が流される被害にあったとする。でも、土砂災害の保険は、あまりイメージにないかもしれない。ぼくは、最近水害についてのテレビを見た。ぼくが見たテレビによると、水害の保険は「火災保険」の「水災」というのだと知った。でも、土砂災害については取り上げられなかった。ぼくは、土砂災害の保険も、「火災保険」の「水災」に当てはまるのではないかと思った。インターネットで調べてみると、「水災」の中に、土砂災害の保険も入っていることが分かった。

ぼくは、この作文を書いて、土砂災害の死者がでない国になってほしいと思った。また、自分の家の非常用持ち出し袋の中身の確認をしたり、家の火災保険の内容を調べたりしたくなった。いつか、土砂災害についての作文を書く機会があったら、次はまた、違ったテーマで書きたいと思う。